

2021年（令和3年）の日本の天候

2021年（令和3年）の日本の天候は、気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的に高く、特に北・西日本ではかなり高くなりました。2020年12月～1月にかけて、日本海側では各地で大雪となりました。8月中旬は東・西日本で記録的な大雨となりました。

2021年（令和3年）の日本の天候の特徴は以下のとおりです。

○気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的に高く、特に北・西日本ではかなり高くなりました
年間を通して気温の高い状態になることが多く、年平均気温は全国的に高く、北・西日本ではかなり高くなりました。

○2020年12月～1月にかけて、日本海側では各地で大雪となりました
2020年12月から1月中旬にかけて、強い寒気が南下したため、日本海側ではしばしば大雪となりました。1月7日から11日にかけては、72時間降雪量が新潟県高田で187センチに達したのをはじめ、日本海側の19地点で記録を更新するなど、大雪が続き、多数の車両の立ち往生など大規模な交通障害が発生しました。冬の降雪量は、西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多くなりました。

○8月中旬は東・西日本で記録的な大雨となりました
8月中旬は、前線が本州付近に停滞したため、東・西日本では各地で長期間にわたって大雨となり、68地点で72時間降水量の多い記録を更新しました。月降水量は西日本日本海側で平年比371%、西日本太平洋側で平年比297%といずれも8月として最も多い記録を更新しました（統計開始は1946年）。

別紙（概況、統計値等）[PDF形式:1.10MB]

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko2021_besshi.pdf

問合せ先：大気海洋部 観測整備計画課 担当 村井（観測値や記録について）
電話 03-6758-3900（内線 4268）
大気海洋部 気候情報課 担当 竹川（天候の解説について）
電話 03-6758-3900（内線 4547）